



私の思い出写真館

心の中の故郷



清田 瞭

大和証券グループ本社
取締役名誉会長



二列目の一番左が筆者

父が転勤族だったおかげで小学校を三つ変わった。最初に入學したのがこの写真の熊本市立日吉小学校である。家族で満州から引き揚げてきた後、両親、祖母、兄弟5人の8人家族で住んでいた父の実家の目の前にある小学校である。父も二人の兄もその小学校に通った。

昭和28年3月に撮ったこの写真は、戦災で焼けた小学校の校舎が新築され、仮住まいのぼろ校舎から真新しい建物に引っ越してきた直後のクラスの集合写真である。戦後復興のつ音高い時代で、子どもたちも新校舎に移り、貧しかったが将来に何の不安も感じなくて済む時代であった。1年生の時だけで長くはいなかったものの、1年1組で樋口先生だったこと、そして私はすでに福岡に転校が決まっていたことは鮮明に覚えている。それから約60年、当時は田んぼや畑に囲まれた、小学校の周りの田園風景はほとんど残っていないが、私の心の中の故郷は今も当時のまま残っている。

2枚目の写真は、2005年、当時ドイツテレコムの副会長兼 CFO だったカール・アイク氏夫妻とその一人息子アレクサンダー君が夏休みを利用して来日した時の写真である。アイク氏との縁は、大和証券がドイツテレコムの民営化と

新規上場において主幹事を務めたことからスタートしたが、その後も仕事を離れたお付き合いが続いている。ケルンのご自宅に家内と娘を伴ってお伺いしたこともあるし、東京の自宅にご家族を招いたこともある。

ドイツテレコムの本社があるボンはベートーベンの生地であることから、毎年、ボン・ドイツテレコム・ベートーベンコンクールを開催している。日本人の演奏家も活躍しているが、アイク氏はその人たちを支援してくれている。私たち夫婦も大のベートーベンファンなので、下手な英語でも結構話がはずむ。この写真は奥様と息子さんが初めて日本に来た時に撮ったもの。家族そろって浴衣を着て祇園祭の山鉦を見に行った時の私たち夫婦との一場面で、思い出深い写真である。



祇園祭での一コマ